

# 夏休みを前にして

岡 田 祐 之

私は、校友課という同窓生の窓口となっている部課に現在勤務しています。仕事柄、大勢の同窓と日々接しています。お会いするのは、主に地域の支部に所属している方やクラブやゼミ等のOB、OG会の世話役をされている方々です。それらの方々と接していると、家庭や職場以外にも、人とのつながりを持つことで、人生を豊かなものにしておられると実感することがしばしばあります。

学生生活が充実していて楽しかったから、同窓会活動にも関わっておられる方が多いので、その人のことをもっと知るために、学生時代どんなことに打ち込んだかをたずねることにしています。勉学に打ち込んだ方（残念ながら少数派ですが…）、クラブ一色だった方、アルバイト漬けだった方、ゼミや寮、アパートの友人と遊んだことが一番印象に残っている方等々、返ってくる答えは、千差万別ですが、大半の方が、聞いているこちらまでが元気をもらえるような活き活きとした表情で語ってくれます。ある同窓は、「自分が属していたクラブで代々夏休みの間『海の家』の店を経営していて、朝から晩まで働きどおしだったが、今までの人生で一番充実していた」と、まるで当時にタイムスリップしたかのように、熱心に話してくださいました。

自分の身を振り返った場合、関学に入学したのは28年も前です。私はキャンプリーダーをしていたので、夏休みはキャンプに明け暮れていました。すでに卒業後の人生の方が長くなっているにも関わらず、卒業後に経験した出来事よりも、キャンプの出来事の方が鮮明に覚えているということが確かにあります。

これは、学生時代は他のことを気にせずに、集中して何かに打ち込める環境が整っているからではないかと最近思うようになりました。

まもなく長期休暇に入ります。学生時代の経験は、目には見えませんが、年月を経ても朽ちない大切な「財産」として、みなさんの心に蓄えられていきます。どうか、そのことを信じて有意義な夏期休暇をお過ごしください。

「蟻の一族は力はないが夏の間にパンを備える」（箴言30章25節）

（校友課職員）